



県内主要産業の動向

2019年7・8月

◎順調 ○まずまず ◐やや低調 ●不調

業種	景況			コメント
	19年6月	19年7月	先行き	
金属洋食器	●	●	→	受注は低調に推移。ホテルやレストランなど業務用の受注が伸び悩む。産地では、東京五輪に向けたPRに注力。採用されれば一定の生産確保につながるなどの期待が大きい。一方で、研磨業等の後継者不足による廃業などで職人が不足気味。量産に向けた生産体制の強化が課題となる。
金属 ハウスウェア	●	●	→	受注は盛り上がりには欠ける。一部に東京五輪の影響とみられる新設ホテルやレストラン等からの受注があるものの、全体では低調に推移。消費税増税による駆け込み需要もみられない。職人不足による外注工賃の上昇などから、研磨工程等を内製化する動きもあるが、一部にとどまる。
作業工具	◐	◐	→	国内販売は、先端工具やレンチ類など建築関連工具類を中心に総じて堅調。しかし足元では建築需要が弱含みであり、先行きを不安視する声も。輸出は、米中摩擦、日韓問題の影響もあり、6月比大幅な減少。コスト上昇が続き採算改善のため、製品価格改定の動きが広がっている。
電子部品 ・デバイス	◐	◐	→	受注は弱含み基調が続く。半導体製造装置向けは、海外需要が引き続き落ち込んでいる。携帯端末向けは、スマホの販売不振が続き低調に推移。車載向けは、海外を中心とした自動車販売の不振を受けて足元で弱含み。米中摩擦の長期化懸念から、先行きに対する慎重姿勢が強い。
鋳物	◐	◐	→	受注は前年割れが続く。海外向けの建機や工場設備、国内向けの鉄道関連など一部で堅調なもの、総じて勢いを欠く状況。投資関連需要が停滞し、受注の延期や取消もみられる。そうした中、今春の労働関連法改正による労務費等の上昇や納期限に苦慮する声が聞かれた。
金型	○	○	→	受注は横ばい。自動車関連では車載器は弱含んでいるものの、車体部門はEVシフトやモデルチェンジに向けた動きを背景に持ち直し基調。建築金物では災害関連需要で耐震補強部品が引き続き堅調。足元では、金型の保管に関する負担など商習慣の悩みも聞かれた。
一般機械	○	○	↘	受注は弱含み基調。航空機・宇宙関連に様子見姿勢がみられる。省人・効率化投資は相応の案件があるものの、コストダウンで先行する欧州勢との競争が激化。今後の米中展開を一段厳しくみる流れもあり、先行きについては慎重な声が聞かれる。工作機械の主要部品不足はほぼ解消。



業種	景況			コメント
	19年6月	19年7月	先行き	
絹織物	●	●	→	十日町産地の7月の生産高はほぼ前年並み。後染めなどフォーマルな着物は前年並みだが、先染めなど比較のカジュアルな着物は前年を上回る水準が続く。足元では展示等が少なく、盛り上がりには欠ける。五泉産地は前年水準を下回った。原材料価格は安定しているものの、職人の高齢化・後継者不足が課題。
合織織物	●	●	→	端境期。春物見本の製作期を迎えたが、天候不順も影響し、アパレルの反応は鈍い。今後の展示会では、各産地の独自性を活かし受注獲得に向けたPRに努めたいところ。足元では、主原料価格は安定している一方、染料価格が環境規制を受け高騰しており、収益圧迫要因に。
ニット	●	●	→	秋冬物生産期。10月の消費増税を控え納期の前倒しから、生産は例年より早くピークを迎えている。店頭では、7月の夏物セールが好調だったことに続き、8月も猛暑により秋物が振るわない状況。足元では例年より早く来春の試作品づくりが始まっているが、店頭の不振から受注につながるかは不透明。
木工家具	●	●	→	業務用では、夏場商戦向け受注に動きがみられず低調。飲食店関連でも大きな受注なく散発的な受注にとどまる。家庭用も、売上確保に依然苦慮。組合は恒例の販促イベントで新しい取り組みを行う予定であり、商工団体も地元ブランド推奨品として県内外での展示会に出展し製品PRを行う。
清酒	●	●	→	7月の出荷量は、県内・県外向けとも前年を上回った。長梅雨で例年より気温が低かったため出荷が伸びた。酒類別では特定名称酒が好調。足元では、8月に入り猛暑に転じたことで出荷は伸び悩んでいる。10月の消費増税を控え、前倒し仕入による需要の変動を懸念する声もある。
米菓	◐	◐	→	7月の売上は、お中元向けの進物類が堅調となり前年をやや上回った。足元では猛暑の影響から、あられ・おかき類を中心に総じて低調に推移。原材料価格や物流費の高止まりを受け、一部メーカーでは生産品目の絞り込みなどでコスト吸収を図る動きがみられる。
建設	◐	◐	→	公共工事は、今年度予算分の工事進捗により増加基調。発注者別では、国・市町村で伸びがみられる。民間工事は、総じて底堅く推移。やや弱含んでいた製造業が持ち直しに転じている。住宅建設は、持家の着工に底堅さがみられるが、貸家の減少により全体では力強さに欠ける。
大型小売店	◐	◐	→	7月の売上は前月に続き前年を下回った。梅雨の影響から客足伸びず、気温上昇の遅れから季節商材が全般的に不振。セール効果も上がらず、消費増税前の高額品需要も鈍い。足元では、気温回復に加えお盆の帰省需要もあって前年を上回って推移。今後は、増税を控え様々な企画で需要を喚起。